

<自分でできる診断>

木造住宅の外壁仕上げは、おおむねモルタル吹付とサイディングボード貼りの2種類に分けられます。まずは自分のすまいがどちらの仕上げになっているか確認しましょう。

次のチェックポイントにひとつでも該当したら、外壁塗装を検討する時期です。

□さわると手に白い粉がつく



外壁塗装の劣化が進みやすいのは、日当たりのよい南面なので、まずそこからチェックしてみましょう。薄く手に付く程度なら、塗膜の劣化が始まっています。手に付く量が多いようであれば、すでに防水効果がなくなりかけていますので、早めに塗り替えなければなりません。

□塗膜が剥がれている、浮いている



剥がれ落ちるほどではないが、表面がひび割れていたり、浮きが見られるときはガムテープなどを貼って剥がしてみても、塗膜がテープに付いてこないかチェックしましょう。

塗膜が剥がれたら、防水効果がなくなっているサインです。

□カビ、藻、コケが発生している



塗膜の劣化によって、外壁が水分を含みやすくなっています。防水効果がなくなっているため、塗り替えが必要です。

□ひび割れがある（モルタルの場合）



近づいてみないと分からない、髪の毛の細さ程度のひび割れ（ヘアクラック）でも、塗膜が劣化して、割れている状態です。よりひどいひび割れがあるときは、外壁から雨水が内部に浸入し、躯体を腐らせている可能性があります。

□シーリング材が割れている（サイディングの場合）



サイディングのつなぎ目は、水密・気密と地震などの衝撃を緩和するため、耐久性・柔軟性のあるシーリング材で充填されています。本来ゴムのような弾力のあるシーリング材が経年により固くなってしまい、ひび割れたり、サイディングと隙間があいたりします。ひどくなると雨水侵入の原因になるので、外壁塗装工事と同時に打ち替えが必要です。

外壁の塗り替え目安は、おおよそ10年ですが、以上のような自己診断を定期的に行って、判断が難しいときは専門家に相談しましょう。相談や診断は複数の業者に依頼することで、外壁の状態や工事費の相場を客観的に判断することができます。できれば2、3社に依頼しましょう。